

令和3年度第4回市民が主役のまちづくり事業支援委員会会議録

1. 開催日 令和4年3月19日(土)
2. 時間 午前9時30分から午後2時10分
3. 開催場所 君津市役所本庁舎
4. 議題 (1) 令和4年度1次募集書類審査の結果について
(2) 令和4年度1次募集申請事業の公開プレゼンテーションについて
(3) 令和4年度1次募集申請事業の採択協議について
5. 公開又は非公開の別
(1) (2)については、公開。(3)については委員の自由な討論が制限されると認められるため非公開(君津市審議会等の会議の公開に関する規則第4条第1項第2号)。
6. 出席委員 8名
榎本 光男 磯貝 弘一 齊藤 はる代 佐藤 ますみ
鈴木 富雄 新田 力男 伯ヶ部 喜久男 藤川 英生
7. 欠席委員 4名
重田 和士 大野 睦 白駒 等 永井 直樹
8. 出席職員 6名
市民環境部長 茂田 達也
市民活動支援課長 丸 博幸
市民活動支援課副課長 安部 あや子
市民活動支援係主任主事 木原 沙都美
市民活動支援係主事 近藤 佑樹
市民活動支援係主事 前田 真帆
9. 傍聴者 なし

開会(午前9時30分)

- 事務局 委員の皆さま、おはようございます。
本日はご多用のところ、ご出席を頂き、誠にありがとうございます。
蔓延防止期間中ということで、会議方法について、会場を分散しての審査、自宅からのズームでのリモート審査に、ご協力いただきありがとうございます。初めての試みで、委員の皆様にはご迷惑をおかけするかもしれませんが、ご理解ご協力のほど、どうぞよろしく願いいたします。
それでは、開会にあたりまして、榎本委員長からご挨拶をいただきたいと思ひます。
- 榎本委員長 ー 委員長挨拶 ー
- 事務局 ありがとうございます。
それでは、委員会設置要綱第5条第1項により、榎本委員長に進行をお願いいたします。
- 榎本委員長 それでは、議事に入ります。
本日の出席委員は8名でございます。よって、定足数に達しておりますので、これより令和3年度第4回市民が主役のまちづくり事業支援委員会を開会します。
なお、重田副委員長、大野委員、白駒委員、永井委員は所用により、本日、欠席となっておりますのでご報告いたします。
本委員会は、君津市審議会等の会議の公開に関する規則に基づき公開されており、本日の傍聴者はありません。
また、本委員会の会議録は、後日、市のホームページで公開されますので、ご了承願ひます。

議題1「令和4年度1次募集書類審査の結果について」

- 榎本委員長 はじめに、議題1「令和4年度1次募集書類審査の結果について」事務局からの説明を求めます。
- 事務局 それでは、先般、書類にて審査いただきました、3団体の書類審査の結果についてご報告いたします。
事業番号1番、事業名「地域内道路環境の美化推進事業」、事業番号2番、事業名「宮下川環境美化推進事業」、事業番号3番、事業名「小櫃のふるさと環境整備」については、3事業全て、全員賛成により、採択すべきものとして決定をいたしました。

最終的な採否については、この結果をもとに、市長が決定いたします。
以上で、報告を終わります。

榎本委員長 それでは、事務局の説明のとおり、決定をさせていただきますので、お願いいたします。

議題2「令和4年度1次募集申請事業の公開プレゼンテーションについて」

榎本委員長 次に、議題2「令和4年度1次募集申請事業の公開プレゼンテーションについて」

議題3「令和4年度1次募集申請事業の採択協議について」事務局からの説明を求めます。

事務局 それでは、「議題2 令和4年度1次募集申請事業の公開プレゼンテーションについて」「議題3 令和4年度1次募集申請事業の採択協議について」ご説明をさせていただきます。

まず、本日のスケジュールからご説明いたします。

審査会資料の2番目に綴じてあります、「スケジュール」をご覧ください。

本日のプレゼンテーションは7件です。

9時50分からプレゼンテーションを開始し、12時10分から12時50分までお昼休憩を取り、終了時刻は14時40分を予定しております。

なお、新規事業については、プレゼンテーション開始前に事務局から留意事項等についてご説明をさせていただきますので、予めご了承をお願いいたします。

次に審査方法についてご説明いたします。

審査は、応募書類と団体によるプレゼンテーションをもとに行います。

発表時間は、1団体につきプレゼンテーション5分、質問時間10分の計15分といたします。ただし、新規団体については、プレゼンテーション10分、質問時間10分の計20分といたします。

審査にあたっては、事前審査表に記載されている項目を主なポイントとして評価していただきますので、プレゼンテーションを受ける際には、審査項目に留意しながら聞いていただければと思います。

また、事前審査の点数は、あくまで仮のものであって、たたき台としてお示しするものであります。各団体側には点数を伝えておりませんので、その点、ご留意いただければと思います。

委員の皆さまには、各団体のプレゼンテーション終了ごとに、評価で

きる点や不十分な点、採択にあたって条件を付けるべき点などについて協議していただき、審査表に点数を記入していただきます。

全団体のプレゼンテーション終了後、委員長から採否についてご報告をいただきます。なお、出席委員の過半数が基準点以上を付けた事業について採択といたします。

最終的な採否については、本日の審査会の結果をもとに、市長が決定いたします。

以上で、説明を終わります。

榎本委員長 事務局の説明についてご質問などがありましたらお願いいたします。
(発言するものなし)

榎本委員長 それでは、発表団体の準備が整い次第、プレゼンテーション審査を開始いたします。

事業番号 4

事業名 SCP(清和コミュニティパーク) 創造プロジェクト

団体名 SCP 創り隊

プレゼンテーション

榎本委員長 事業番号4番、事業名「SCP(清和コミュニティパーク) 創造プロジェクト」のプレゼンテーションを開始いたします。

発表時間は5分、質疑応答が10分となります。

団体名および発表者の紹介をしてから、事業の説明をお願いします。

団体 — 画面共有にて説明 —

質疑応答

榎本委員長 ありがとうございます。

それでは質疑に入りたいと思います。委員の皆様から質問等ありましたら、お願いします。

場所がないという話をされましたが、現実的に来年度行うのに、今、秋元小の目途は立っているんですか。

団体 来年度はちょっと無理でして、令和5年4月から新しく公民館とか行政センターが入ったところを作るっていう予定で動いてくださっているんですが、そこで令和5年4月から使えるようになる予定なので、来年度に関しては、秋元小はちょっと難しい状況です。

榎本委員長 来年度はどうしようかね。

団体 来年度に向けては令和5年4月からスムーズに、放課後子ども教室を行うために準備をしていくというのがメインなところと、毎日は無理か

もしれないんですけども、清和公民館のホールは使えるので、そこを使った子ども教室っていうのは、月に何回かとかいう形でもやっていけないかっていうのを、今、模索しています。

あと、清和小学校の体育館の使用許可を取ってその体育館を、体を動かすことをメインに使うっていう形で、放課後子ども教室的なことができないかっていうのを、今ちょっと考えているところです。

榎本委員長
団体

現在、集めている子供たちの人数は、何人いらっしゃいますか。

基本は清和小学校の子がメインなので、イベントとかやるときは近くの小糸小の子たちも来たりするんですけども、基本的にはマックス 60 人ぐらいですかね。イベントをやると、大体そのうち 20 人から 30 人が来てくれるような形でやっています。

放課後子ども教室自体は、実際コロナの関係があって、一昨年が最後になっているんですけども、その当時は、1 回につき放課後やると、15 名ぐらいが参加してくれて、活動していました。

磯貝委員

2 点ほど聞きたいんですけども。来年度の子ども教室の講師と見守り協力隊の方の予算は取ってありますけれども、協力の関係っていうか、人集めの見込みはどうでしょうか。

団体

今まで、先ほどのかわら版の裏にこんな形で、協力してくれる方を募集してまして、実際やってもいいよって言ってくださっている方は、20 名程度、登録があるんです。ただ、ちゃんと定期的に行うってところまで持っていけないので、まだ、実際、じゃあどうやりましょうっていうところは、詰めきれてないんですけども、そこを令和 5 年 4 月からの年度に向けて整備をしていこうというところになっています。人数的には 20 名程度、登録はしてくれています。

磯貝委員

もう 1 点ですけど、清和小学校で、鍵をかけられないということなんですけれども、鍵をかけられるような仕組みっていうのは、できるんじゃないかと思うんですけど。学校側の方だとか、或いは教育委員会の方とお話をして、事業の必要性っていうか、人の子どもたちを預かる場所ですので、そういう協力関係は行政の方でも、或いは学校の方でも、あってもいいんじゃないでしょうか。

団体

ぜひ、そうしていただけるとありがたいんですけども、これは学校側から言われているのが、校舎のちゃんとした入口を使わなくても、外とそこだけで出入りができるような部屋を用意しないと学童的なものに貸してもらえないっていうのもあるみたいで、そういった部屋が清和小には用意ができないっていうふうに言われています。確かに、以前、小糸の小学校に入っていた学童とかを見ると、小学校の建物の中には基本

入らないっていう作りをしてあって、その辺がどういった形で市の方で支援してもらえるのかわからないんですけど、そういう部屋をもし作っていただけるということであれば、すぐにでもできるかなというのは、正直あるところですよ。ただちょっとそこまでは、計画してもらえてないといえますか、手立てがないという形ですね。

新田委員

SCP は本来、学童保育が目的で結成された会だというふうに思っているんですけども。今のお話を聞くと、その本来の目的が、今年度はなかなか厳しいという実態があるわけですが、これを除くと、あとはイベントを何回か実施をするということのようなんですけど、私が思うに、さっき磯貝さんのお話にもありましたけども、この学童保育を実行するためには、やっぱり何らかの支援を、市役所の関係者に支援をしていただくことが必要ではないかなというふうに思っているんです。その窓口が、多分、市民が主役のまちづくりの委員会を担当しているポジションの方々が、いわゆる、支援の担当になるんじゃないかなという気がするんですよ。従って、もう少し連携を取っていただいて、学童保育を何とか上手く、実施をしていっていただきたいな。こういうふうに思っておりますので、よろしく願いいたします。

伯ヶ部委員

今、新田さんから言われたことと同じなんですけれども、やっぱりこれだけ皆さん方が情熱を持ってやっていただかないと、自分の子供たちが、清和小にお世話なっているけども、学童保育のような形のものがないと、他の小学校に行きたいとか、清和地区に定着しなくなりますよね。元々、教育委員会だって、統合の小学校を作ったということは、その地域の方たちのそのニーズに十分答えて、条件整備をしていると思うんですよ。ですから今後も、こちらの事務局の方と相談をして、早急にできることは、例えば、清和小学校の一部を、学童保育として、使いたいということであれば、どれぐらいの予算がかかるかわかりませんが、清和小学校の建物と、それから皆さん方が活動できる場所と区別ができるような仕組みを作ればいいわけですよ。他の教室に行っちゃったりするとどちらも大変ですもんね。そこからはいけないよっていうものを、ちょっとしたシャッターでも作れば、すぐにでも活動できるんじゃないかと、単純に考えれば思いますね。それから、元の秋元小学校も、公民館やいろんな施設をあそこで作り直すわけですから、簡単に皆さん方が活動できるような場所が作れるかっていうと、最終的には作るにしてもね、すぐに活動できるようなことは、できないんじゃないでしょうか。そうすると清和小学校の一部を改修とか、或いは清和公民館の広いところ使うとか。すぐに来年度も、使用できるようなことを、皆さん方は、市の担

当者と連携してやっついていかないと、過疎化少子化がますます進んでいくような気がするんです。私は20年ぐらい前、秋元小学校に勤めていたことがあるんですけども、非常にあそこは環境的に良いところですよ。道路から離れたところで、周りが全く何もなくて、静かでのどかなところですよ。教育環境としては非常に素晴らしいと思っていました。ですから、清和小学校にしても、秋元小学校跡地にしても、条件整備をしてくださる方は、市当局の方ですから、十分お願いして、1日も早く活動ができるように、というふうに私は思いました。頑張ってください。

団体

清和公民館のホールであればすぐ使えるんです。ただ、足がないんです。放課後子ども教室をやるときに、今、清和小学校から皆さん、スクールバスを出していただいているので、家に帰ってくるんですけども、帰った先から送れる親がいなかったりするんです。そうすると、結局、放課子ども教室をやっても、参加ができないっていう形になってしまうので、やっぱりその足の問題が、一番、今ネックで、できればそのスクールバスの停留所として、1ヶ所、清和公民館っていうのができて、希望者は清和公民館で下ろせるよっていうような整備ができれば、有難いなと思ってるんですけども、その辺は、教育委員会の方とも話したりはしているんですが、まだちょっと基本的にスクールバスというのが、家と学校を繋ぐものっていうくくりでやってるっていうふうな話をされていて、なかなか違う停留所に帰りは届けてくださいっていうのは難しいという状況ではあります。でもおっしゃるように、このままだと、どんどん過疎化も進んでしまうのでそういうところを何とか訴えたりするところで、うまく整備が回っていくような形を取ればいいなというふうに思います。ありがとうございます。

榎本委員長

他にご質問なければ終了したいと思います。よろしいですか。

以上で、プレゼンテーションは終了となります。

お疲れ様でした。

(団体退場)

事業番号 5

事業名 かずさっ子の居場所づくり

団体名 かずさっ子クラブ

プレゼンテーション

榎本委員長 事業番号5番、事業名「かずさっ子の居場所づくり」のプレゼンテーションを開始いたします。

発表時間は5分、質疑応答が10分となります。

団体名および発表者の紹介をしてから、事業の説明をお願いします。

団体 — 資料にて説明 —

質疑応答

- 榎本委員長 ありがとうございました。
 それでは質疑に入りたいと思います。委員の皆様から質問等ありましたら、お願いします。
- 新田委員 先ほど、ボランティアの数が思ったよりも少ないというふうなことをおっしゃっていましたが、これを解消するためにどのような対応されたかちょっと教えていただけますか。
- 団体 市の方でチラシを作ってもらって、それを回覧版で配ってもらったんです。それで、上総地域の回覧版に回ったんですが、回覧板を見て電話した人が1件もなかったのが現状です。しょうがないので、私の近所のおばあちゃんとかに声をかけるとか、かずさっ子クラブに来ているお母さんのお父さんに声をかけてやってもらったとか、あと、私の活動で一緒の男の人とか、そういう方に声をかけてやってもらっているっていう状況ですね。
- 新田委員 今後に対する不安というのはございませんか。
- 団体 そうですね。ボランティアの数が増えない限り、ちょっと日数は増やせないなとは思っています。
- 榎本委員長 マザー牧場とか、三船山とか、少し上総から遠いところへ行かれる活動が多いようですが、そういった点で、大変苦労したところはどこですか。
- 団体 まだ今年やったことないことを、来年やってみようかなと思って、初めて企画している段階です。無料バスが借りられるってことが調べてみたらあったのですが、抽選だったりするようなので、借りられたら、みんなで学校行事のように、親睦も深めるために親も一緒に行こうかなと思っています。
- 藤川委員 かずさっ子クラブ通信、中々立派で非常に良い通信だと思ってるんですが、この回数は月1回なんですね。
- 団体 かずさっ子クラブ通信の回数は月に1回です。
- 藤川委員 もっと出されたらいいと思って。大変だろうけど、立派な通信なのでぜひ続けてください。
- 榎本委員長 他にご質問なければ終了したいと思います。よろしいですか。
 以上で、プレゼンテーションは終了となります。
 お疲れ様でした。

(団体退場)

事業番号 6

事業名 災害対策及び環境整備

団体名 こいとのきこり隊

プレゼンテーション

榎本委員長 事業番号6番、事業名「災害対策及び環境整備」のプレゼンテーションを開始いたします。

発表時間は10分、質疑応答が10分となります。

団体名および発表者の紹介をしてから、事業の説明をお願いします。

団体 — 画面共有にて説明 —

質疑応答

榎本委員長 ありがとうございます。

それでは質疑に入りたいと思います。委員の皆様から質問等ありましたら、お願いします。

榎本委員長 作業をするにあたって地元の方の中に、木を切ったり、竹を切ったりするようなプロの方はいらっしゃるんですか。

団体 チェーンソーをお持ちの方は5人ぐらいいるかと思います。その方は、資格はありませんけれども、十分に経験を積まれています。私は、昨年12月に3日間の安全講習を受けてきました。実質6、7年はチェーンソーを持っていて、経験はあります。装備や服装もちょうどできています。

榎本委員長 怪我をされるという恐れがあるんですが、保険とかはどう考えてますか。

団体 それは市の保険があるということで聞いております。ですから、それを利用させていただきたいと考えております。

藤川委員 おたくの自治会は何人ぐらいの自治会なんですか。

団体 来年度から25戸です。

藤川委員 25戸のうち13名の方が参加されてると。

団体 ほとんど山の所有者の方です。参加ということじゃなくて、その方は必ず入ってもらうようにしています。先月、やった薪割りには15名参加していただきました。出られない連絡が入ったのが3名。お年寄り、女性の方が2名いたりしますので、ほとんどの方が参加してくれたと考えております。

藤川委員 自治会活動との関係は、どういうふうに見たらいいんですか。

団体 13日に総会をやりまして。20名弱参加していただき、この話を細かく

話しました。自治会活動とは別なんですけれども、ほぼ一体と私は考えております。目的はですね、結局、防災。地震があった時に、パッと動けるかどうか。それが一番強いところです。

藤川委員 事業実施の目的に挙げている、地域住民の連帯感が強化。これが非常に役立っているということなんですかね。

団体 そうですね。最終的にというか、それがほぼ8割9割だと考えてます。

新田委員 素晴らしい活動というふうに思っておりますけども、やる範囲が1kmということで設定をされておりますが、終わった時にさらに延長するというような、そういう考えはお持ちなんですか。

団体 夢を話してよろしいでしょうか。1kmの範囲に、遊歩道みたいなもののできたらいいなと思ってます。これは行政の問題も絡むと思うんで、ちょっとそこまで話はしてないんですけれども、ここをお年寄りの方が、川を見ながら歩けたらいいかなと思ってます。遊歩道は1kmでは足りない。ですから、もっともっと広げて、これを広めて、他の方にも参加していただけたらと、ニーズが多ければ早くそういったものができるのかな。そんなことも考えています。

齊藤委員 行馬という所に行ったことないんですけれども、遊歩道がもし出来たら、ぜひ行ってみたいと思います。

電線は東京電力さんだと思うんですけれども。写真を見ただけでも、すごく危険で怖いと思いました。あれを、素人がやっても、まず大丈夫なのかなということと、それから作った薪などの利用はどのように考えていますか。

団体 まず電線の木です。私、安全講習を受けてきました。非常に危険だということ認識しました。だけれども、手順を踏んで、安全にできるようにということで、この前も1月に1本切ってもらったんですけども。それは、私が受けた森林組合の方が来てやられていました。これはもう重機を使って、上からブランコのようにぶら下がって切っていたもので、重機がありませんので、ちょっとそれは真似できないなど。ですが、下から切って、川の方に倒すということなので、下に人がいないことをまず確認して、それで倒していけば、怪我をすることはないのかなと考えております。

齊藤委員 電力会社さんの立ち会いとかはありますか。

団体 そうですね。もし立ち会っていただけるのであれば、それに越したことはありませんので、お願いしたいと思ってます。ただ、これは民地のため、基本的にはその所有者で対応しなければいけないことなのかなと考えております。この前、東京電力ではなくて、下の方にNTTとKDDIの電

話線があるんですけども、そこに既に木が倒れていて、幹にぶつかっているところがあるんですが、これは NTT、KDDI さんも、うちはそういうことはしないんだと。片付けないんだと。東電さんは積極的に対応してくれるんですけど。ちょっと今、写真ありませんけれども、そういったぶら下がっているというか、傾いた状態のものが 1ヶ所ございまして、それはまず、ちょっともう電線側に傾いちゃっているんで、これは我々ではちょっと切れませんので、どうしようかなと苦慮しているところです。薪はですね、災害対策ということで、この作業を冬にやった時に、疲れて上がってきた時に豚汁かなんかできたらいいかなと思ひまして、女性の方にちょっと、男性でもいいんですけども、女性グループにちょっとお願いをして、上がってきたときに何か温かいものを、提供していただけないかなと、また、防災対策も兼ねて行いたいと考えております。

磯貝委員

1 点お聞きしたいんですけども、将来的に遊歩道が作れたらいいなということで、期待しております。竹林の伐採っていうことですが、伐採をやると竹っていうのはすごい成長早くて、1 年ごとに大きくなってしまおうと思うんですね。実際、伐採で竹を利用したいっていうことも書いてあるんですけども、実際に 30 cm から 1m くらい掘らないと竹の駆除っていうのは難しいんじゃないかっていうことを聞いたことがあるんですね。そこら辺はどういうふうに考えていますか。3 年過ぎて、4 年目以降については、地元の方でやるっていうことなんでしょうか。

団体

千葉県緑化推進委員会というボランティア活動に参加しております。もう 5 年ぐらいになるんですかね。そこで竹っていうのは 10・11 月頃に、1m ぐらいの高さで切ると、水を吸い上げて、それで死んでいくってようなことを聞いています。だから、撲滅するためには 1m ぐらいの高さで切れればいいのかなという認識でおります。基本的にはタケノコを取りたいなと思っております。これは先ほどからの、地域住民の連帯感に繋がっていくのかな、なんてことも考えておりますので、今回の伐採だけではなくて、その後、もう永続的に、タケノコ掘りの時期だよっていうことで、みんなで集まってというようなこともできたらいいと思っております。

榎本委員長

今、タケノコっておっしゃっていましたが、これは、孟宗竹ですか。

団体

孟宗竹は 1 割ぐらいでしょうかね。真竹がほとんどで、淡竹があるかどうかちょっとわからないんですけども。真竹が多いと思います。

榎本委員長

他に質問なければ終了したいと思います。よろしいですか。以上で、プレゼンテーションは終了となります。

お疲れ様でした。
(団体退場)

事業番号 7

事業名 福祉のまちづくりを推進するプロジェクト

団体名 プロジェクトK

プレゼンテーション

榎本委員長 事業番号7番、事業名「福祉のまちづくりを推進するプロジェクト」のプレゼンテーションを開始いたします。

発表時間は5分、質疑応答が10分となります。

団体名および発表者の紹介をしてから、事業の説明をお願いします。

団体 ー 画面共有にて説明 ー

質疑応答

榎本委員長 ありがとうございます。

それでは質疑に入りたいと思います。委員の皆様から質問等ありましたら、お願いします。

藤川委員 10月に福祉体験会をやられるようになっておりますが、具体的にはどのような形でやられるんですか。

団体 予定としては、昨年は動画の作成講座をやったんですけど、今年はボランティアのやり方とかを、講師を招いてやっていきたいなど。バリアフリーを今年は重点的にやっていきたいと思いますので、障がい者の方の紹介とか、あと君津駅でのエレベーターとか階段での、車椅子の降ろし方とか、目の見えない人の誘導の仕方とか、そういったところを講座でやっていきたいなと思っています。

藤川委員 その参加者の募集みたいなのは、どういう形でやられるんですか。

団体 昨年もやったポスターや市の広報を利用してやっていきたいなと思っています。

新田委員 動画の件についてちょっとお尋ねしますけども、この種の動画っていうのは、社会にいろいろ出回っていることも多々あるんですけども、平尾さんが独自に作られている動画との違いっていうのは、どういうところが違いっていうか、特徴点はこういったところにありますでしょうか。

団体 君津市に住んでいる、障がいを持った方が、これだけ凄いことをいろいろやっているんだよっていうのをまず紹介したいのと、それから、福祉のやり方、手話でいうと、簡単に手話のやり方を普通のYouTubeでは流してるんですけど、なぜこういった手話の形になっているのかとかな

ど、説明を踏まえた動画を作っていきたいなと思っています。

榎本委員長 他にご質問なければ終了したいと思いますですが、よろしいですか。

以上で、プレゼンテーションは終了となります。

お疲れ様でした。

(団体退場)

事業番号 8

事業名 ゲンザイチ

団体名 ヒトコト

プレゼンテーション

榎本委員長 事業番号8番、事業名「ゲンザイチ」のプレゼンテーションを開始いたします。

発表時間は10分、質疑応答が10分となります。

団体名および発表者の紹介をしてから、事業の説明をお願いします。

団体 — 画面共有にて説明 —

質疑応答

榎本委員長 ありがとうございます。

それでは質疑に入りたいと思います。委員の皆様から質問等ありましたら、お願いします。

佐藤委員 私、清和に住んでいるんですけども、清和を活性化していただくということで、プロジェクトが進んでいるんですけど、対象年齢というか、呼ぶ人たちは、若い人ですか、お年寄りですか。それがちょっとわからなかったです。

具体的に会場が、お寺とか、空き家とか、書いてありましたけれども、具体的な場所とかが決まっておられるかっていうのが2つ目。

それから、お願いする方が翁^{おきな}さんとか、他の人たちの名前も挙がっていましたが、経費を見ますと、旅費がかなり高いというところがわかります。翁^{おきな}さんとかは私も地域準備会のお会いして、お話を聞かせていただいたんですけども、果たして、この対象の人数が20名ぐらを集めてってということですけど、清和に聞きにくる若い方たちがいらっしゃるか。それがちょっと疑問です。

団体 おっしゃる通りだと思います。まず、イベント自体、若い世代はメインターゲットであるんですけど、もちろん地域のシニア層の方でも、もちろんご参加していただきたいと思いますが、あとは君津市内市外に関わらず、対象になってくるかなというふうに考えています。

あと、もう1点が、ゲストの方をお招きしてっていうことなんですが、初年度で計画しているのが、実践されている方たちの生の声を聞いて、実際にこの交流が目的なので、集まった人たちと繋がりを作って、次年度以降はゲストさんを必ずしも清和に呼んでということではなくて、例えばオンラインでの開催の形など、ちょっと形を変えつつ、開催を行っていく、継続をしていくっていう流れを作っていこうかなというふうに考えています。

佐藤委員 では、旅費として挙げられている、場所的なものは、^{おきな}翁さんは、福岡県っていうのはわかっていますけど、他の方たちの多分お住まいなんだと思うんですけども、かなりの経費だなんて私は思うんです。

 これだけの経費を使って果たして、それだけの成果が上がるかっていうのはどうでしょうか。どのように考えておられますか？

団体 実際に、交通費自体どうしてもかかってしまうのは、今回初年度、開催して、遠くから足を運んでもらって、今までまちづくりに関わっていた講師の方たちも、いろんなネットワークがあると思うので、実際に集まり、呼びかける人も講師の方のネットワークを活用した上で、実際に清和にきてもらうっていう流れが出来ます。新型コロナウイルスの影響でだいぶ参加者の枠をなるべく絞ってはいるので、もしコロナウイルスが落ち着いていけば、その参加者の人数も増やして、初年度から次年度っていうような流れを作っていこうと考えています。

 先ほど、場所のお話もご質問いただいたと思うんですけど、現状で考えているのは、例えばなんですけども、お寺や九十九谷の風景とか、実際に来てもらった人には見てもらいたいなっていうふうに考えているところがいくつかあるので、清和に行ったら、ここだよなっていうところはアピールしていきたいなというふうには考えています。

佐藤委員 九十九谷展望台のところで、トークイベントみたいなのは行うつもりですか。

団体 実際に、いわゆる講師の方が喋って会談するっていう形は、メインの会場の方で、例えば、清和公民館のホールや、席に座って落ち着ける場所で考えまして、そこから移動して、オプション会場で、九十九谷や濃溝の滝でちょっと観光気分を味わいながら、実際に行った人たちが、ここで何が出来るのかを考えてみるというところを、掘り起こしたいなっていうふうに考えています。

佐藤委員 例えば、どちらのお寺とか空き家とかそういったところは、少しお話が通じるってことですか。

団体 秋元小の準備会の時にも、清和のこと自体、ここまで深く関わるまで

知らなかったの、実際、準備会で清和の方たちと関わることで、繋がりは出来てきているかなと思っています。

実際に空き家で困っている方とか、山が荒れていて困っている方とかいらっしゃるので、そういった方達に今回お話をして、実際、若い世代の人たちがその場所に行って、何か解決のアイデアを考えるような、そういった流れが、ゲンザイチで出来ていくかなと思っています

藤川委員

狙いはよくわかるんですけども、他の地域のゲストの人に頼りすぎているんじゃないですかね。若い人たちが20人ぐらい集まるんだから、そこで議論して、そして問題点を摘出して解決をしていくかということ。そちらが先じゃないですか。

100万円分ということで、経費は挙がっているけど、報償費、旅費、委託料でほとんど使っている。そういう外部受注しないで、若い皆さんでいろいろ議論すると。メンバーの中に、清和の人は入ってないですよ。この辺がどうも違和感があるんですよ。それもね、清和だけじゃなくて、こういうことは君津全体の問題ですよ。その辺どうお考えですか。会長さんに聞きたいです。

団体

メンバーに1人、清和の方がいるんですけど、今、複合施設とかで清和が盛り上がっているの、それと一緒に、まず清和から始めて、そこから君津市全体に広がるような、サイクルができたらいいなと考えています。

藤川委員

若い人たちが、一生懸命、将来の君津についてどうするかということは、ぜひ議論していただきたいですよ。これは、狙いは非常にいいと思うんですけど、いわゆる、どういうステップでやるかということ。これは、自分たちで動かないと。お話にあった中にもちょっと出てたけども、やっぱり自分たちで考えないといけないんですよ。もし、このゲストたちの意見を紹介したいなら、あなた達2人で手分けして、その人たちのところに行ってお話を聞いてくるとか。或いはこの人たち、YouTubeやなんかで色々やっているでしょうから、その意見を取りまとめて、それをみんなに紹介すればいいと思います。あとは皆で議論することが重要だと思うんです。どうですかね。

団体

任意団体ヒトコト自体も設立したばかりなので、まず、実績っていうのが実際なかったりするので、私たちも、まず、経験をしてみたいっていうので、なおかつ、この君津市内でそういったイベントをやることで、私たち自身ももちろん実績に繋がって、なおかつ、他の地域で実践されていることって、清和で当てはまらない可能性っていうのもありますけど。

ただ、それを地域にいる我々が聞いて、何か別のものに変換するようなヒントを得て、この地域じゃ何ができるかっていう考えを、ブラッシュアップする場所ってというのが、清和でゲンザイチをやる意味なのかなと思っています。おっしゃる通り、確かに我々が赴いて、他の講師の方からの意見を吸収する動きっていうのも大事だと思います。ただ、あくまで君津で、人を呼んで、流れを作っていくっていうところは、我々としても今後の流れを作っていく上では、非常に重要なポイントかなって思っています。

藤川委員 とにかくこの企画は自分たちで、もっと練ってください。再検討された方がいいと思いますね。

榎本委員長 他にご質問なければ終了したいと思います、よろしいですか。
以上で、プレゼンテーションは終了となります。

お疲れ様でした。

(団体退場)

事業番号 9

事業名 猫と人間とが共存できる環境づくり

団体名 猫レンジャー

プレゼンテーション

榎本委員長 事業番号9番、事業名「猫と人間とが共存できる環境づくり」のプレゼンテーションを開始いたします。

発表時間は5分、質疑応答が10分となります。

団体名および発表者の紹介をしてから、事業の説明をお願いします。

団体 ー 画面共有にて説明 ー

質疑応答

榎本委員長 ありがとうございました。

それでは質疑に入りたいと思います。委員の皆様から質問等ありましたら、お願いします。

齊藤委員 譲渡の費用はどのようになっていますか。

団体 譲渡に関しまして、1匹につき2万円を一律でいただいています。医療費がかかっても、かからなくても、一律にさせていただきます。それは、保護施設に猫を入れるときに、他の猫に感染するような病気を持っていたりすることがありますので、まず検査をします。そして、その猫が病気にかからないワクチンを打ったり、外にいと必ずノミやダニがいますので、そういう駆除をします。

譲渡に出す時に必ず避妊去勢をして出さないと、万が一、譲渡先で外に出てしまって、また繁殖したらいけませんので、必ず避妊去勢をしますので、そういう費用を負担していただいて、ご理解いただいたところに譲渡しております。

榎本委員長 他にご質問なければ終了したいと思います、よろしいですか。
以上で、プレゼンテーションは終了となります。
お疲れ様でした。
(団体退場)

事業番号 10

事業名 SEIWA アイデアソン Season 2

団体名 NPO 法人いきいき清和

プレゼンテーション

榎本委員長 事業番号10番、事業名「SEIWA アイデアソン Season 2」のプレゼンテーションを開始いたします。

発表時間は5分、質疑応答が10分となります。

団体名および発表者の紹介をしてから、事業の説明をお願いします。

団体 ー 画面共有にて説明 ー

質疑応答

榎本委員長 ありがとうございます。

それでは質疑に入りたいと思います。委員の皆様から質問等ありましたら、お願いします。

新田委員 先般、ビデオを見せていただいて、活動の内容がよくわかりました。私は子どもたちが、いろんな現状を知る中で夢を見る。夢に向かって進むというのは非常に素晴らしいことだなということで、改めて、この活動の意味合いを評価したいというふうに思っているんですけども。

今、1回あたり2,500円、10回で2万5,000円という参加費用がありましたけども、この金額っていうのは、親から見ると違和感というか、そういったものは、とりあえずないという理解でよろしいでしょうか。

団体 そう思っていますし、正直、この内容を東京の普通の塾でやると、多分5,000円、6,000円が当たり前になっちゃうんです。今回、補助をいただいているので、そういう形で対応できるかなというところですね。それが高くなってしまえば、それはちょっとどうしようもないっていうか。僕らも、一人一人とやっぱ向き合っていきたいというのが、実はあってですね、それができなくなってしまうので、多くって言って

も、20人以上とかはさすがにちょっと今回多すぎたなと思うんで、ちょっと難しいところでもありますね。

新田委員 清和の子供たちは、前回どのくらいいらっしゃったんでしょうか。

団体 24人のうち、6人です。

新田委員 それは大体予想通りの数字ですか。

団体 そうですね。それぐらい来てくれればという感じでしたね。

新田委員 あの方々は、どういった方法で集められたんですか。

団体 君津市の皆さんにご協力いただきまして、各小中学校の対象者3,000人にチラシを配布させていただきました。それを見て、申し込みをしていただくという形です。

新田委員 いわゆる夢の実現に向かって、ITを使ってまとめていくんでしょうけども、どういうまとめ方をするのかなというところに、非常に興味があるんだけど、それをちょっと教えてくれませんか。

団体 来週27日に発表会なんですよ。もし、お越しいただけるようだったら来ていただけたら、各チームが1チームずつ発表していきますんで。

僕が担当したチームが1つありまして、清和に店がないと。Uber Eatsが来ないという話になりまして。じゃあ、どうすりゃいいんだと。その時に方法として、清和の近く、自治会館でも何でもいいんですけど、中間地点を作ろうと。まず、何でお店は清和にないのか、から入ったんです。なんでUber Eatsが来てくれないのか。それは注文数が少なすぎるからだ。それなら、何人が集まれば来てくれる可能性はあるねと。中間地点を作って、10件ピザが食べたいというのが集まった段階で、その拠点に集めて、その拠点からお家までは取りに来るもしくは、ドローンで配送したりとかっていう形を組み合わせていくっていうのが、これが5年後ぐらいのビジョンです。これは、今ある技術を使えば出来てしまいます。

次は、10年後20年後、もっと今ない技術で出来るならどうすればいいんだっていう話になりまして、もっともっと早くいろんな物を、つてなったときに、今度はこの中間地点に、テレポーテーションできたらなっていう話になったんです。僕の方でちょっと誘導もしちゃったんですけど、3Dプリンター的な、材料やレシピさえあれば出来てしまうような厨房を、中間地点に作ります。お店側からすると、レシピだけ売ればいい。中間地点で作るのは、今までは、お店が作って中間地点にドローンとかで運んで、また運んでだったんですけども、もうレシピだけ渡してくれれば、その中間地点に作れるような工場作ってしまって、そこからまたドローンとかを使って飛ばすとか、取りに来てもらうみたいな

ことをやっていく。

これって実は凄くて、重い難しいものになってしまうと、他の自治体、全国に波及できないんで、できるだけライトな感じでやるっていうところまで行ってですね。それを、何か企画ベースでやったらいけないじゃないかみたいな。これ、凄くて、今度は何が起こるかって、これがもし実現できたら飲食店が潰れるんです。つまり、Amazon が本屋さんから、小売店を潰したように、例えば、大手のファミレスやピザ屋さんを全部潰す可能性があって。そういうのが、やっぱり 1 つのイノベーションというか、まだそれを実現できるところまでは、ちょっと時間が足り過ぎて、できないんですけども、ただそのアイデアを持って、次は本当のアプリケーションを作って、そこに対して、3D プリンター的なものをどうやって作れば、どういう技術があれば、出来上がるのかみたいな議論をさらに深めていくと、実は、実現できる可能性がありますし、お金がないって言っても、その企画を持って、投資家などを回って、何とかお金を集めてやるとか、そういうことは多分できてくるんじゃないか、みたいな感じです。

藤川委員

先月の 15 日の事業視察をさせてもらいましたけども、その時にリーダーと書記を決めて、チームごとにこんな君津したいということで、みんなで議論されていたんですけど。どういう話になったかをお聞かせいただければ。

団体

もういっぱい出ちゃいまして。本当にこんなに出るかぐらいまで出ちゃったんですね。一言でちょっと言い切れないんですけども。1 番面白かったのは、ブラックホールを君津に作ると。君津を日本の首都にすればいいんじゃないかという話や、もっと現実的にいくと、移動の手段で、ロープウェイを上手く使ってやったらどうかとか、ジェットコースターでそこに行こうとかですね。実は、ロープウェイに関しては、横浜のみなとみらいで出来ていて、桜木町からみなとみらいまでを、ロープウェイで繋いで、観光含めて移動手段にするとかっていうのは、この間、作られたばかりなんです。それを彼らは知らないんですけども、そういう発想が出てくるのが非常に面白いですね。

本当に色々出てきちゃって、ただ、全部はできないから、もっとまとめてできそうなやつとか、面白いやつだけやろうね、みたいな形でまとめて、それをさらに、突っ込んでやってるっていうのが、今回の形でございます。

藤川委員

みんな楽しそうに議論をし、話し合いをしておられまして、また、講師の方が各チームに張り付いておられて、非常にうまくやっておられる

など思っておりました。頑張ってください。

榎本委員長

他にご質問なければ終了したいと思います。よろしいですか。

以上で、プレゼンテーションは終了となります。

お疲れ様でした。

(団体退場)

議題3 「令和4年度1次募集申請事業の採択協議について」(非公開)

閉会(午後2時10分)